

LCで閲覧した ICCP 関係アーカイヴズ史料

松林正己

アメリカの研究図書館 (Research Libraries) の起源 (origin) や歴史を調査する過程で、さまざまな機関 (概して研究大学図書館) のアーカイヴズを閲覧・調査している。2010年8月にほぼ5日間は米国議会図書館 (Library of Congress: LC) 手稿部 (The Manuscript Division) に通い、北米研究図書館協会 (Association of Research Libraries: ARL) の保存文書を閲覧した。このアーカイヴズを利用して ARL の成立史^[1]をまとめた LC 職員もいるし、近年だとファーミントン・プランの歴史を書き上げたワグナーの学位論文^[2]もこのアーカイヴズを利用しての労作である。アメリカの図書館史研究は、印刷文献以上に全米の諸機関が所蔵・保存する手稿やアーカイヴズが潤沢にあり、その起源を確実に検証して、執筆され、学術的精度の高さはわが国の研究と比べものにならないことをここ10年近い調査経験で実感している。

今回は畏友和中幹雄氏から、「ARL アーカイヴズに眠る ICCP(International Conference on Cataloguing Principles)関連の資料を確認してきて欲しい」という依頼を受けて、関連するファイルを閲覧・撮影してきた。

ファイルを開けて、驚いたのは1961年にパリで開催された国際目録原則会議のために前年に刊行され、関係各国の図書館協会宛に送付された DRAFT STATEMENT^[3]、NEWSLETTER^[4] & WORKING PAPER^[5]が完全な形で保存されていることであった。各種草案などを含めると400頁を超えるために複写機での複製には時間がかかりすぎるために断念し、デジカメで撮影した。その中には、当時真空管式の電子計算機が稼動していたアメリカらしい論文が、WORKING PAPER として刊行されており、日本語文献で ICCP について読んできた筆者には、かくも広い視野で準備された国際会議の意義を今更ながら驚いた。この新鮮な印象を失わないために、閲覧室で提供されている WiFi (無線 LAN) を利用し、早速 NACSIS-WEBCAT と NDL-OPAC に接続して、手許の各種ドキュメントが日本国内で所蔵され、閲覧可能かどうかを確認した。いずれも書誌情報も所蔵情報も生憎確認されない。日本では20世紀中葉に成立した国際目録原則の成立史を追跡できないことが予測された。ICCP がどのような観点から議論を展開し、その諸成果を踏まえて刊行されたのかを歴史的に検証する視点と史料は日本では保存されていないかあるいは個人的に死蔵されていることになる。

帰国後、原井直子 JLA 目録委員長 (NDL 総務部司書監) に日本図書館協会の保存文書で確認できるか否かを照会して頂いた。目録委員会関係資料については、1977年度以前の文書は保存されていないとの回答を頂戴した。これは国内では国際的な視点で目録史を調査することは不可能だということを裏付けている。今後は日本図書館協会が関与する国際的な活動や機関に関する資料の保存体制を見直すべきではなかろうか。デジタル版は便利だが、手稿やアーカイヴズ資料は現物を保存しない限り、史的証拠 (historical evidence)

の保存は維持されないことをアメリカの研究図書館関係者は知悉しており、2010年6月までイェール大学図書館長を務めたプラハスカ女史はテキサス大学オースティン校でのシンポジウムで証拠の重要性を指摘した[6]。

今後 JLA が主体的に関わる事業に関する公文書や関連資料で有効期限の切れた文書やドキュメントの保存が機関内で無理ならば、NDL あるいは図書館情報学関連領域の大学院を併設する高等教育機関の図書館やアーカイヴズ部門にそれらの史料の保存を委託すべきではなかろうか。図書館は記録を保存することが使命の一つである。その使命を推進する機関の一つが JLA ならば、上述した事実は協会の社会的役割とその関係文書の保存体制のあり方を問い直す契機を孕んでいよう。

MLA(Museum, Library & Archives)という連携運動の推進が日本でも図られはじめている。筆者のアメリカでの調査対象機関は大半が MLA を備えた研究図書館ばかりで、史料保存は三者の連携が必然であることを体験している。連携運動に積極的に関わる前に JLA は自らの史料保存体制方針を明確にする必要がある。JLA が関与するドキュメントは、民間機関とはいえ、その公共性は政府機関と同等であろう。ならば公文書保存と同様に熟慮されるべきである。

前後して加藤信哉氏（東北大学附属図書館）と電話で話す機会があり、筆者が瞠目したガルの論考[7]については、石山洋氏が天野敬太郎氏記念論文集に紹介論文を寄稿されているとの指摘を受け、併せて確認した[8]。ガルの創見に富む議論は、当時カード目録全盛の日本の読者にはその意義がわかりにくかったようで、議論は十分かどうか。1960年代前後に既にメタデータへの着想を思わせる。典拠データの判断をコンピュータとキャタロガーの両者が共同して進めるという概念枠が示されている、と読解したからに他ならない。彼の議論は、目録法の観点から再検討する必要性もあろう。著者ガルは GE(General Electric Company)の情報システム部分分析コンサルタントの肩書きを持つ。それにしてもエニアック稼働後、十数年を経て、コンピュータ文化の下地はすっかり成熟していることが垣間見れる。

19世紀アメリカで最初の研究大学（Research University）ジョンズ・ホプキンス大学初代学長を務めたダニエル・コイト・ギルマン（Daniel Coit Gilman, 1831-1908）は、図書館員は歴史家（historian）だ、と指摘していた。管見の及んだ図書館員の専門性への議論では、イギリスの大学で歴史社会学を講じるピーター・バーグは、図書館員は哲学者に近い、とも書いている[9]。いずれも真なりであろう。だが、この真なりを保証する証拠を保存することが、図書館関係専門職の使命なのだが、それを実行可能にする文化的伝統が日本文化には希薄なのではないか。

職場の同僚である学芸員キューレーター氏からの又聞きで恐縮だが、比較文学者の芳賀徹氏は、欧米は記録レコードの文化、日本は記憶メモリーの文化、と指摘していたそうだ。この知性的差異はいかにも大きい。公文書を保存公開する制度が未定着などと言いつつ誤りがましい文言を連ねるだけでは、問題解決にはならない。日本の官僚制に起因しよう。

オバマではないが、絶えず変化を与えることで堅固に護られるものもあるのである。アメリカのアーカイヴズ史料は、機会に応じて再組織化作業がなされる。今回の調査でも作業中なので、閲覧できないものがあるかもしれないと事前に連絡と口頭通知があった。保守も大変なのだが、物証が歴史自体を語っている。史料に歴史自体を実感したものは、印刷された歴史では未完の何かでしかなく、史的現実を実感できない歴史記述には知的興奮を覚えにくい。アメリカのキャタロガーや主題専門職(subject bibliographer)にも歴史学で博士号を取得した人が多い、どんな最先端研究領域のドキュメントであれ、時間が経てばすべては<史料>となる。人類の知的遺産を後世に伝えるのは、日本文化にはかくも難しい。日本における「知」の社会的役割（制度化）に関わる議論は、識者の指摘を踏まえた別稿に譲りたい。

謝辞 いつもことながら加藤信哉さんにはさまざまな知見とご高配を頂戴した、「同僚(colleague)」の真の意味を実践してくださることに心より御礼申し上げる。

(まつばやし まさき 中部大学附属三浦記念図書館)

(2010年11月16日 受理)

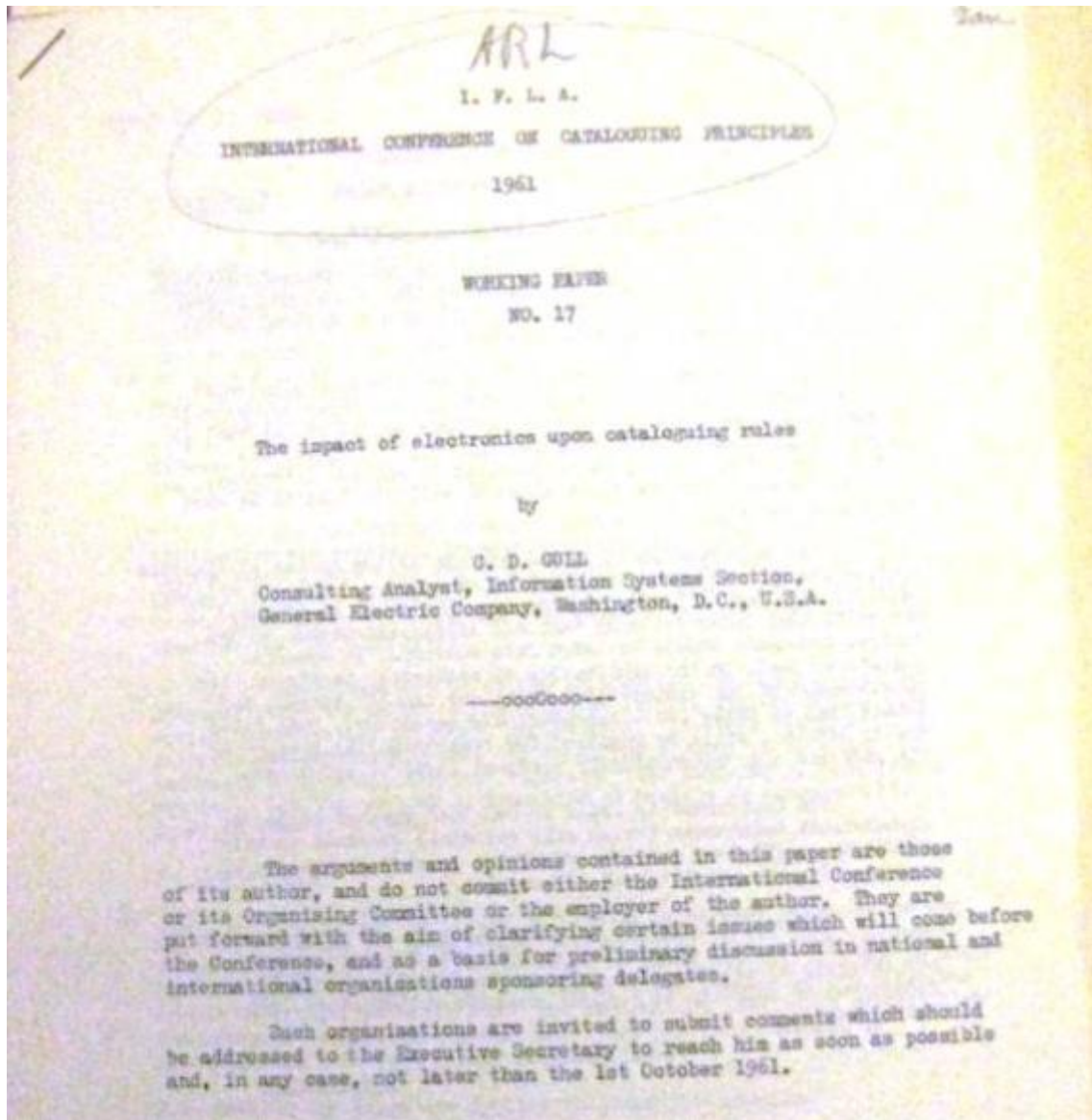


写真1 Gull, C. D. The impact of electronics upon cataloguing rules. (I.F.L.A. INTERNATIONAL CONFERENCE OF CATALOGUING PRINCIPLES 1961 WORKING PAPER ; NO.17)の表紙

TABLE I
HUMAN AND AUTOMATIC AUTHORSHIP
and the
CHARACTERISTICS AND PARAMETERS OF STORED INFORMATION

STORED INFORMATION	AUTHORSHIP			Automatic
	Personal	Corporate	Anonymous	
1. Nature of Information	Factual, Intellectual, Literary, Conceptual			Factual; Derived from literary etc. Sources.
2. Storage Media	Paper	Paper	Paper	Punched Cards & Tapes; Magnetic Tapes, Discs, Drums, etc.
3. Time	Date of Publication			Split Second Time of Preparation.
4. Motion	Static	Static	Static	Electronically Active; Static.
5. Coordinates	Place (City) of Publication			City; Latitude & Longitude; Extra-terrestrial Coordinates.
6. Producer	Individual Author(s)	Group of Authors	Unidentified Persons	Computer; Other Electronic-Mechanical Devices.
7. Control	Individual Author(s)	Group of Authors	Unidentified Persons	Human and Automatic Programs.

写真2 ガル論文巻末にまとめられた表 標題は”TABLE I HUMAN AND AUTOMATIC AUTHORSHIP and the CHARACTERISTICS AND PARAMETERS OF STORED INFORMATION”

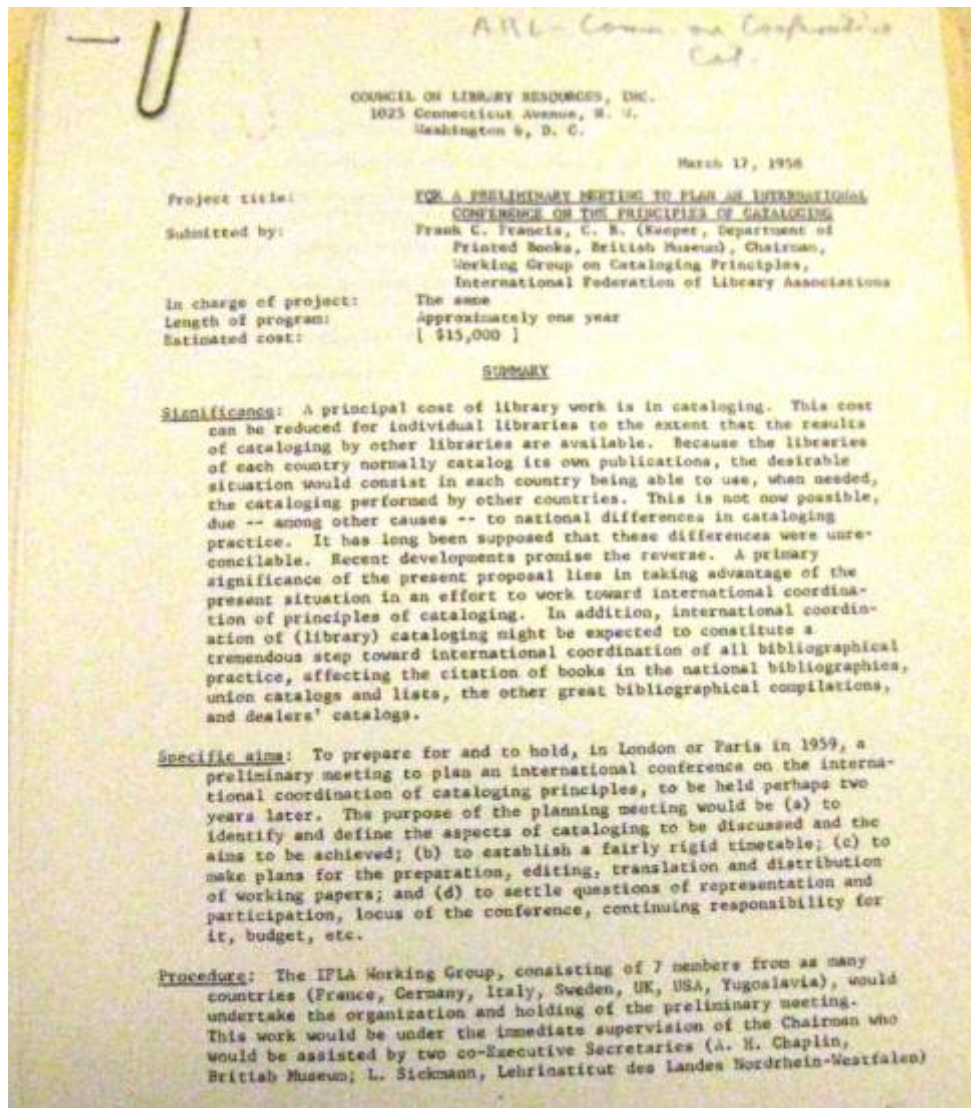


写真3 国際目録法原則会議準備会議に関わる資金を図書館資源振興財団が負担する文書の記録 1958年3月17日付

[1] McGowan, Frank M. 1972. *The Association of Research Libraries 1932-1962*. [Pittsburgh]: University of Pittsburgh.

[2] Wagner, Ralph D. 2002. *A history of the Farmington Plan*. Lanham, Md: Scarecrow Press.

[3] International Conference on Cataloguing Principles, and A. F. Chaplin. 1961. *Draft statement of principles*.

[4] International Conference on Cataloguing Principles. 1963. *Newsletter / International Conference on Cataloguing Principles ; International Federation of Library Associations*.

- [5] International Conference on Cataloguing Principles. 1961. *Working papers*. [S.l.]: International Federation of Library Associations.
- [6] Barnett, Douglas E., and Fred M. Heath. 2009. *The research library in the 21st century*. London: Routledge. p.54-57 該当箇所の抄訳は下記拙著を参照のこと。
松林 正己. 2010. *続図書館はだれのものか 図書館の未来を求めて*. 春日井市: 中部大学. p.62-65
- [7] Gull, Clyde Dake. 1961. *The impact of electronics upon cataloguing rules: working paper no. 17*.
- [8] 石山洋. 1971. 主記入の運命: シー・ディ・ガルの所説をめぐって. In: *図書館学とその周辺: 天野敬太郎先生古稀記念論文集*. 東京: 巖南堂書店. p.158-165
- [9] Burke, Peter. 2004. *知識の社会史 知と情報はいかにして商品化したか*. 東京: 新曜社.